

## 100年以上続く『多田農園』 ～世界コンクール「金賞」を目指して～

多田 繁夫さん (ただ しげお)  
有限会社多田農園 代表取締役

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく-北海道」運動第6回コンクールで優秀賞を受賞した「有限会社多田農園」の多田さんにお話を伺いました。

### 《北海道の真ん中で100年以上も続く多田農園》

上富良野町は、北海道のほぼ中央に位置し、十勝岳の麓にある「ラベンダーのまち」として知られる農業と観光の町です。その上富良野町で100年以上も続いているのが多田農園です。そこでは農業の6次産業化を実践し、ワイナリーとしても注目されています。

多田農園は、多田さんの祖父が1901（明治34）年に兵庫県から入植して今年で125年目になり、先々代から玉ねぎを中心ににんじんも栽培していました。

1997年、にんじん選果場を設備し、にんじん栽培の専門へ転換、道外へ直接販売を開始しました。農産物の高付加価値化をもっと図れないか、栄養価が高く安全な農産物加工品を病気の方などへ提供することができないか、などの思いから1999年に農業法人としての活動を始めました。翌年の2000年には規格外品のにんじんを活用するため加工場「にんじん工房」を建設し、「冷凍にんじんジュース」の製造・販売を開始。工房では他にも「野菜まん」などの商品も開発されています。



多田ワイナリー、手にはピノ・ノワール（2026年度販売予定）

### 《偶然の出会いと昔の想いがワイナリーに》

多田農園では、にんじんの他にも、ぶどう、りんご、グリーンアスパラなどたくさんの作物が栽培されています。その中で大半の作付面積を占めているのが醸造用のぶどう畑です。2007年からスタートしたワインづくりは、偶然の重なりからでした。たまたま立ち寄ったワイナリーでオーナーと出会い苗木を譲り受ける話が持ち上がりました。自身も20代のころにワインに興味を持って勉強した思いがあり、仲間の後押しも重なって700本の苗木を植栽することになりました。それから3年間、他の農園に行って話を聞くなどの試行錯誤を経て、2010年ピノ・ノワールのワインを販売します。2016年には「多田ワイナリー」をオープンし、ワインの製造を自然発酵でスタートします。18年経った今では、シャルドネ、メルロー、バカラス…など品種も多数増えています。2020年には、初めて参加した国内最大規模の品評会「日本ワインコンクール」で銅賞を受賞する栄誉を得ました。

2004年には大学のインターンシップの受け入れをきっかけに、既存施設を利用したファームイン田舎倶楽部を建設し、修学旅行生や一般客の宿泊を受け入れ、農業体験を通じて「農・食・命」のつながりの大切さを伝えています。

多田さんのお子さんたちも本州からUターンし跡取りの心配も解消されました。これからは、2026年に取得予定の廃校のグラウンドを利用して『多田ファームスクール』を開校する準備をしています。そして、世界のワインコンクールで『金賞』を受賞することが目標ですと、多田さんは話してくれました。

当協会ホームページ、「わが村は美しく-北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子『生産空間の活性化に資する地域事例集』をご覧ください。

